



平成28年11月14日

海上保安庁

JICA 研修員が駿河湾で測量船による乗船実習を実施します
～最新の海洋調査技術を習得～

海図作成のための水路測量技術の習得を目的として来日している東南アジア各国からの JICA((独)国際協力機構)研修員が、最新の海洋調査技術の習得を目的として、11月19日及び20日の2日間、駿河湾において測量船「明洋」による乗船実習を実施します。

海図作成のための水路測量技術の習得のため、東南アジア各国の関係機関の水路測量技術者(4カ国7名)が JICA 研修員として6月下旬から来日しています。最新の海洋調査機器の操作方法等の習得を目的とし、11月19日及び20日の2日間、駿河湾において海上保安庁所属の測量船「明洋」による乗船実習を実施します。

○実習日程及び内容

- ・19日(土) 08:30~16:30 (09:45 頃清水港出港、16:30 頃帰港)
「明洋」に搭載されたマルチビーム音響測深機による沖合の水深データの取得
- ・20日(日) 08:30~11:15 (清水港に停泊したまま)
海底土を採取する際に使用する採泥器の操作方法や観測機器を船に固定する際などに必要となるロープの結び方(ロープワーク)など

○測量船「明洋」停泊場所(出入港場所)

清水港内江尻4号岸壁(静岡県静岡市清水区島崎町174付近)

○今年度の研修員(4カ国7名)

カンボジア1名、インドネシア3名、ミャンマー2名、フィリピン1名

○実習場所（駿河湾）



○昨年（平成 27 年）の実習風景



測量船乗組員から水深データの処理方法について説明を受ける研修員



測量船乗組員から採泥器の取扱方法について説明を受ける研修員



ロープワーク実習に取り組む研修員